

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4373000431		
法人名	有限会社紫おん福祉の家		
事業所名	紫おん福祉の家		
所在地	熊本県葦北郡芦北町鶴木山1288-5		
自己評価作成日	令和6年10月 01 日	評価結果市町村報告日	令和6年11月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>四季を感じる家庭的雰囲気の中で、入居者9名お方々が生活を楽しんでおられます。職員は経験豊かで、毎日4~5名で介助、支援に従事しています。現在は、コロナの影響で休止しておりますが、地域老人会との交流、コーラスグループ訪問演奏会、音大の音楽療法、自家菜園があり、野菜作りも取り入れて変化のある生活をと心がけています。日々の流れでは、残存能力に応じた機能訓練、ラジオ体操、歩行訓練、口腔ケア、カラオケ、算数、塗り絵、手作りのパズルを実施しています。過去に、2名の若年性認知症の方を受け入れました。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>この3年程で若い職員や看護師の入職で次世代の育成にも力を入れておられる様子が聞かれました。夜勤専門・短時間勤務の職員もおられるため、介護計画や各種記録の書き方も非常に分かりやすく、理解しやすいよう工夫されていました。地域との連携もよくあり、包括支援センター等居宅支援事業との連携も充実しています。事業所では「その人の力が継続するように」の考えが従来より引き継がれており、ケアの基本とされています。入居者・職員が地域で暮らす家族のような関わりを持ち、職員面談でも「代表には職員も家族のように大事にしてもらっている」との言葉がありました。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構		
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号		
訪問調査日	令和6年10月29日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	安全安心、自立、基本的人権の尊重を理念として、年二回職員研修において学び、個々に合った支援をしている。	年度末毎の職員研修では、代表より理念の展開として次年度の介護目標を示す機会もあり、職員一丸となって入居者の介護に携わることの申し合わせを行った。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年もコロナで活動が出来なかった。例年は民生委員さんを中心に地域出身の職員により繋がりが出来ている。音楽療法、花見、ソーメン流し等、出来るものから復活していきたい、花いっぱい運動の時は花の苗を毎年いただいている。	コロナ禍以降地域行事等の開催も減り、未だ再開には届かないのが現状である。従来地域行事への参加や地域役員の方々との親交もあり、職員・入居者ともに地域出身の方もおられることから交流は日常的なものである。近隣に住宅が建つ際には餅投げ見学にも出向いた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナが終息したら、前項行事で認知症の予防や理解を深めるようにするつもりである。認知症カフェや介護予防教室等にも参加したいと思っている。、		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会は、昨年度はコロナで文書での報告が多かったが、今年度は、1回だけ文書報告したが、他は開催でき、ヒヤリハット、事故報告などもおこなっている。災害時の避難方法なども話し合い、困った時は手伝うと言って下さっている。	隔月開催を基本とする運営推進会議はできるだけ対面での開催としている。事業所の稼働状況だけでなく、災害時避難や感染症状況の情報・反省点等の共有も行っている。身体拘束に関する職員研修の内容も共有している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役場に出向き、町役場担当者との連携はよくとれているとおもう。運営推進委員会にも出席してもらい情報の交換をして連携は良く取れている。	日頃から出向き、事業所の実状や取組み状況説明、連絡や相談等を行っており、連絡も密にできる環境である。今年度は、事業所本体の改修工事等の具体的な相談などにも出向き、運営推進会議にも出席頂き、現状や課題に対し意見を得る機会も持っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしない方針である。事業所内研修で学んでいる。身体拘束適正委員会は、チェック機関を運営推進委員会にもお願いすべく、拘束、虐待防止に取り組んでいることを報告している。	「紫おん福祉の家身体拘束適正化委員会」を設け、身体拘束ゼロへの手引きを備え、身体拘束をしないケアの実践を行っている。職員間で事例を基に行う研修内容は運営推進会議でも共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内研修で年2回以上研修している。5年度は、熊本県有料老人ホーム施設長等権利擁護推進研修も受け、職員に共有している。		

グループホーム紫おん福祉の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	上記の研修や、包括が主催する権利擁護の研修などを受けて、事業所内研修で学んで、日常の介護に活かすようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時、十分説明している。特に入院になった時の待つ期限についても説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員に家族代表を2名お願いしている。ご家族の面会時や、ライン、電話などで、ご要望を聞くようにしている。	入居者の状況は事業所から家族へ電話等で報告し、意見を得る機会でもある。面会や受診介助等で来訪頂いた際には入居者の状況の共有を行い、意見・要望を確認している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所内研修や、日常のミーティングの中で意見や提案をきいている。	職員会議や研修の他、日々業務の中でも職員は運営に関し代表や管理者へ意見や提案を伝えることができ、都度検討されている。職員面談でも働きやすい職場であるとの声が聞かれた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年出産する職員や、子育て中の職員を入れ、職員の若返りを図った。勤務体制、時間などに配慮した。創立時から働いている職員も、非常勤で勤めてもらい、体調に配慮した勤務体制を組んでいる。処遇改善で給料アップした。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内研修、介護実践者研修、ケアマネ更新研修、熊本県グループホーム連絡会主催の研修に参加し、職員に共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	芦北、水俣ブロック会で当番を決め、研修、情報交換などをしたり、一緒に県グループホーム主催の研修に出かけたりしている。コロナ以前は、バレーボール大会などもした。		

グループホーム紫おん福祉の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人とご家族と入所時に良く話を聞き、それを職員で共有し安全と安心の確保に勤めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時、時には電話などでご家族野不安や心配事、金銭面などの事も聞き、必要に応じて生保などの申請のお手伝いもしている。家に残されたご家族の相談にもものっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話し合いの中で「その時」必要としている支援を把握し、ケアプランに入れ、医療連携、終末ケアも含めて相談に応じている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームでの小さな役割りを持ってもらうなどの努力をしている。例えば、テーブル、トレー拭き、調理の下ごしらえ、新聞たみ、洗濯物たみ、庭の掃除、草取りなどをお願いしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診介助の多い方、町外の受診はご家族にお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナでお祭りなどにも出かけられず、電話やお手紙などをお願いしている。ご家族からお葉書や花、お菓子などの贈り物がある。その月に描いた塗り絵や写真などをおくり、面会出来ないが元気で活動しておられる事をお伝えしている。	コロナ禍以降、外出や来所での関わりは難しい状況が続いたが、家族との関係支援は変わらず行った。面会出来ない時期には電話もよく見られた。数年帰宅ができなかった入居者は同郷の職員が地元ドライブに連れて行く等工夫している。ボランティアや美容師の来訪等も継続し同じ方に依頼することで入居後の馴染みの関係にもつながっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日当たりの良い所にソファを置き、話をしたり、食事やおやつの時の座席の考慮をし、良い関係が出来ている。		

グループホーム紫おん福祉の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に行かれた時などは面会に行っていたが、コロナで行けず行かれた施設がコロナのクラスターが起きた時は、手づくりのケーキと飲み物を持って複数の施設に見舞いに行った。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時とか、お茶の時間などにご希望や思いを聞くようにしている。	日頃の生活の中での寄り添い、職員との会話等で意向の把握を行っている。介護計画作成時には本人だけでなく家族の意見も確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に以前の担当のケアマネージャーから情報をいただいたり、ご家族や地域の方との交流の中でお聞きして、生活歴などの把握に務めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のミーティング、朝夕の引継ぎにて、また、研修の折の話し合いで把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の研修会や、朝のミーティング、朝夕の引継ぎで出た情報をケアマネージャーが集約してケアプランを作っている。	日頃の生活での課題や職員の意見、家族等の意見を集め、現状に即した介護計画を作成している。「その人の力が継続するように」の考えが引き継がれており、介護計画・アセスメント・モニタリング等の記録は短時間勤務の職員にも入居者の状況が分かりやすい表現がなされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、ケース記録、申し送りノートなどに記録して、介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	町外の受診にご家族が行けないときは、その日、休みの職員に時給を払ってもらって受診したり、ご家族がおられなかったり、面会が何年もないかたは、ガソリン代をいただいで、個別にゆっくり故郷訪問をしたりしている。		

グループホーム紫おん福祉の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区区長、民生委員、消防団、その他地区住民の協力を得て、安心安全に勤めている。何かあったら、手伝いますと声をかけてくださっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望される主治医の毎月の診療を訪問診療と通院受診で受けている。その他、訪問歯科、精神科、整形外科、を受けている。医療連携は十分にとれている。	入居以前からのかかりつけ医・本人家族が希望される医師の受診を支援している。現在は往診も増えた。通院回数が多い方、町外の通院の際には家族協力による通院を基本としている。歯科医からは月1回訪問診療を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は常勤であり、看護も介護も連携が良くとれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院との情報の交流、相談は、ケアマネ、看護師を中心に良い関係が出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化された場合、ご家族と話し合い、ご本人に一番ふさわしいケアを受けられるよう話し合う。特に終末期には医師、ご家族、グループホームの三者にて協議を重ねて取り組んでいる。	事業所の考えと体制・取組み等を説明している。重度化された際には何が本人にとっての最善かを考え、家族や関係機関と話し合いを重ね支援に取り組んでいる。現状は病院への入院も多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師は常勤であり、看護も介護も連携が良くとれている。医師の指導、指示により対応している。訓練は定期的には行っていないが、対応の仕方は、マニュアルを事務室に貼っている。感染症対策もBCPに盛り込んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年、2回の訓練を行っている。消防団、地区住民、役場との協力体制ができている。令和2年から4回、台風到来時には県立青少年の家に避難した。反省をふまえBCPを作成した。	地域の協力も得ながら年2回の訓練を行っている。今年度も台風に備え実際に公共施設への避難を行う際にはボランティアの応援もあり、行政への報告も行っている。2年前の避難の反省点よりマニュアルを作成、毎回課題・反省点を踏まえ、次回に備え充実に繋がっている。	

グループホーム紫おん福祉の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	経営理念に個人の尊重、自立、安心、安全を基本に、言葉かけを気にかけている。排泄、入浴介助の時など、特にプライバシーを大切にしている。	経営理念にも示されており、介護の基本とされている。運営推進会議では入居者の共通理解を行っており、性格や現状の報告を行う際にはインシヤル表記としている。会議では「プライドを傷つけない言葉かけをする」等の取組みも共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴に心がけ、表情に留意し、コミュニケーションを図って、一人ひとりの状況に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりの状況に応じて、出来るだけご希望に添って支援している。創作活動も塗り絵か、計算ドリルか。数字合せゲームか、その方の好みと能力で選ばれるよう選択肢を増やしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みや季節に合った洋服、整髪、おしゃれに気を付けている。洋服や靴を購入するときは、店にご一緒して購入することもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食事、家庭料理、行事食に気遣い、利用後も野菜下ごしらえをしてもらうこともある。減塩に留意し、ご飯も、小豆、サツマイモ、トウモロコシ 等を入れる。食後のトレイを拭いてもらったりする。	職員による手作りの食事を提供している。代表が手塩にかけて育てた高貴な果物(マンゴー)を鑑賞したり食して楽しんだり、又、下拵えを手伝う姿もある。今年に入居者の摂食状況の変化が見られる入居者がおられたため管理栄養士の研修を受け、ミキサー食・ペースト食について学ぶ機会を持った。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	今年から。管理栄養士のアドバイスを研修を通して学んだ。食事量、水分摂取量は記録をとっている。夏の暑い時には、アクエリアス、OS1、ホームの畑で収穫した西瓜を摂った。体重減少がみられるかたには、高カロリー飲料、ゼリーを提供。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きをされるよう声かけし、ご自分で出来ない方はかいじょしている。ご自分の歯がのこっているかたは、訪問歯科で、定期的にケアをしていただいている。		

グループホーム紫おん福祉の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録から、お一人おひとりのパターンを把握し、シグナルを見逃さず自立に向けた支援を行っている。	入居者それぞれの尿の量増・失禁等の情報共有を行い、誘導の間隔を短くする等工夫している。下着・ズボン等着替えが必要な際には声掛けにも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳酸菌飲料を取り入れ、飲食物の工夫はもとより、主治医や薬剤師に相談しながら、服薬や、座薬、浣腸等を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や湯加減の好み、入浴時間の長短などを考えて、入浴する順番を決め、色々話を聴きながら入浴していただいている。	週2回決まった曜日の午前中の中の入浴を基本としている。自分でできることはできるだけ継続するよう、介護しすぎないような取組みを行っている。	入浴の際は入居者がゆっくりと過ごせるよう支援されているようです。職員体制も難しい場合もあるかと思いますが、お湯張りの日時を含め入浴希望や体調を考慮し、入居者それぞれにそった支援ができることに期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	運動、入眠前の歌DVD鑑賞、服薬管理で眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師の指示の下、看護師を中心に全職員が共通理解を持ち、服薬の薬は、2人で確認し、誤薬のないようにしている。拒薬傾向、嚥下困難な方には粉碎出来る方には粉碎して、エリースイートで溶いて与薬している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や談話の中で得た情報から、ご本人が楽しく思われることを支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染防止のため、花見なども車から降りることはせず、車窓から、桜、さつきなどを花見した。球磨川沿いの自宅に車でお連れしたり。近くの海まで散歩に同伴したりする。何年も面会が無い方を同郷の職員がドライブにお連れし喜ばれた。	長雨や猛暑でその日の希望で気軽な外出は難しい年であったが、気候が良い時には庭でグランドゴルフを楽しんだり、散歩等、日常的に行っている。車窓からの花見や神社お祭りへのドライブ等にも出かけた。介護計画にも日光浴・グランドゴルフ、故郷訪問やドライブ等、入居者それぞれに合わせた個々の支援を提供している。	

グループホーム紫おん福祉の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は皆さんお出来にならないので、何かを購入するときには、ご家族に承諾をいただき、収支はコピーを毎月請求書とともに送っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話はつないでいる。ご家族に電話をしたいたたには、ご家族の都合の良い時間に電話をかけるお手伝いをしている。手紙が来たら、宛名だけお手伝いしてご本人に書いてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花をかざったり、行事の写真を飾ったり、創作活動でご自分で創ったもの等を自室に飾っている。認知症が進んで、許容範囲が狭くなると、壁などに飾ることを拒否される方もいる。	食堂には食卓の他にソファ等も数ヶ所に置き、好みの場所で過ごすことができる。入居者の相性やその日の気分等、不具合が感じられる時には席を離す等で穏やかに過ごせる配慮を行っている。食堂入り口には季節の花が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを3か所に置いて、好みの場所で過ごしていただいている。各居室にも椅子があり、仲の良いご利用者同志、お喋り等をしておられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お気に入りの自宅から持ってきた家具をおいたり、ソファを置いたりしてくつろげるようにしている。ご家族の写真などをいっぱい飾っておられる方もいる。	入居時に使い慣れた生活用品の持ち込みを依頼しており、それぞれに家族との関わりを感じる居室となっている。夜間にはポータブルトイレを使用される入居者もおられるため、安全な配置等にも配慮している。	夜間ポータブルトイレを利用される入居者もおられ、安全に配慮した場所への設置が考えられていました。訪問時もポータブルトイレがベッド脇に置かれていたもので、移動が難しいようであれば布を掛ける等、プライバシーへの配慮も検討されてはいかがでしょうか。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全、安心を目標に個々に合せた椅子を置き、手すりの設置、ベッドから降りた時滑らないように滑り止めマットを置いている方もいる。ベッドから降りるとき不安定な方にP型レバーを設置し、夜間のポータブルトイレ使用時の安全を確保している。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 紫おん福祉の家

作成日 令和 6年 11月 27日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	34	転倒回数が増えている	転倒など事故をゼロに。	リスクマネジメントを行う	1カ月
2	49	外出の回数が減っている。	月2回くらい外出できる	月間計画に組み込む	3カ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。